



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年1月31日

上場会社名 株式会社 バッファロー
コード番号 3352 URL <https://www.buffalo.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 坂本 裕二
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 日下部 直喜
四半期報告書提出予定日 2023年2月13日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 048-227-8860

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	8,215	9.1	404	38.8	437	7.4	277	0.9
2022年3月期第3四半期	7,531	3.9	291	18.7	407	0.5	280	3.6

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 277百万円 (0.8%) 2022年3月期第3四半期 280百万円 (3.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	121.76	
2022年3月期第3四半期	123.26	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	8,465	5,948	70.3
2022年3月期	7,761	5,685	73.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 5,948百万円 2022年3月期 5,685百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		20.00		20.00	40.00
2023年3月期		20.00			
2023年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,300	3.0	508	15.0	540	5.9	364	3.5	158.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	2,345,874 株	2022年3月期	2,275,374 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,444 株	2022年3月期	2,156 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	2,281,204 株	2022年3月期3Q	2,273,218 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新たな変異株による新型コロナウイルス感染症の再拡大が続く一方で、感染症対策と並行しての経済活動正常化に向けた流れが進み、国内における行動制限の解除、入国制限の緩和等が図られました。しかしながら、ロシア・ウクライナ情勢の緊迫化による資源価格の高騰と、欧米の金利上昇に伴う円安を背景にインフレが進行しており、消費者の購買力低下・節約志向の強まりから先行きは不透明な状況となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、変容する経済環境・ライフスタイルに対応すべく業容改革を推し進め、生活インフラである車関連事業及び外食事業を通じ地域の暮らしに寄与すべく営業活動を行ってまいりました。

当社グループのセグメントごとの業績は、次のとおりであります。

<オートボックス事業>

当第3四半期連結会計期間末におけるオートボックス事業の店舗数は、15店舗であります。当第3四半期連結累計期間中における店舗の新設及び廃止はございません。

オートボックス事業が属する国内カー用品市場の環境につきましては、自動車メーカー各社が部品供給の遅れにより減産を行う等、国内の新車販売台数の前年割れが続く、カーナビゲーション・ドライブレコーダー等の新車への取付需要が停滞することとなりました。その一方で、3年ぶりに行動規制が解除となったことからゴールデンウィーク・お盆帰省・年末帰省など外出機会が増加し、ロングドライブに関連した消耗品の需要が伸びております。

このような環境の中で当社グループは、2019年5月に公表した「2019 中期経営計画」のもと「クルマのことならオートボックス」の実践を通じた地域ナンバーワンの店づくりを目指し、顧客満足度向上のための接客・接客力の強化、技術力を備えた専門スタッフの育成に取り組んでおります。販売施策といたしましては、中期的な重点分野と位置付けるボディコーティングやヘッドライトコーティングメニュー等、車の美観向上に関するピットサービスメニューにつき継続的な拡販に努めており、堅調に売上を伸ばしております。タイヤ販売につきましては、メーカー各社の価格改定により2度の値上げを実施しましたが、低価格帯商品を充実させた売場づくりと積極的な販促活動により既存車のメンテナンス需要の取り込みを行ったことで、数量・金額ともに前年から増加しました。車販売部門につきましては、新車販売が自動車メーカーからの納車の遅れにより低迷する一方で、活性化する中古車市場を背景に買取り・オークション販売が大幅に増加した影響から、前年を上回る結果となっております。

これらの取り組みにより、オートボックス事業の売上高は7,693,565千円（前年同期比6.6%増）となりました。

<飲食事業>

当社グループは、2019年7月に設立した子会社「株式会社バップアローフードサービス」において、(株)焼肉ライクがチェーン展開する『焼肉ライク』のフランチャイジーとして飲食事業を運営しております。前連結会計年度までに開設した5店舗とともに、2022年4月7日に広島県内で同チェーン初出店となる「焼肉ライク ekie広島店」、2022年4月21日に「焼肉ライク 南池袋店」、2022年10月18日に「焼肉ライク 川口駅東口店」を新たにオープンし、当第3四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は8店舗となりました。

『焼肉ライク』は、「Tasty! Quick! Value!」をキャッチフレーズに、1人1台の無煙ロースターを導入し、お客様が好きな部位を好きなだけ楽しむことができる、個人客をメインターゲットにした新感覚の“焼肉ファストフード店”であります。

飲食事業が属する外食業界におきましては、2022年3月末のまん延防止等重点措置の解除により、人流制限が緩和され、個人消費に持ち直しの兆しが見られたものの、コロナ禍でのライフスタイルの変化や、商品価格の上昇等による消費者の節約志向、また原料、エネルギー単価の高騰による企業収益への影響等、経営環境は依然厳しい状況が続いております。

当社グループといたしましては、新型コロナウイルス感染対策を行いつつ、お客様・取引先様・従業員の安全と健康を第一義とした店舗運営を徹底し、新規店舗の周辺地域への認知度向上を図るとともに、既存店舗のサービス充実にも努めてまいりました。販売施策といたしましては、2022年10月より一部店舗にてサブスクリプション「焼肉フィットネス」の取り扱いを開始しており、健康志向のお客様をターゲットとしたメニューの提供による新たな客層の開拓と収益の拡充を図っております。

これらの取り組みにより、飲食事業の売上高は店舗数の増加等を反映し521,901千円（前年同期比65.0%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高8,215,467千円（前年同期比9.1%増）、営業利益404,113千円（同38.8%増）、経常利益437,561千円（同7.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益277,763千円（同0.9%減）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セグメント	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
オートボックス事業	7,214,907	95.8	7,693,565	93.6	9,574,396	95.7
飲食事業	316,227	4.2	521,901	6.4	426,469	4.3
合計	7,531,134	100.0	8,215,467	100.0	10,000,866	100.0

各品目別の売上高及び構成比は次のとおりであります。

品目	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
ピット・サービス工賃	2,185,090	29.0	2,329,884	28.4	2,884,706	28.8
タイヤ・ホイール	1,767,142	23.5	2,081,621	25.3	2,370,894	23.7
アクセサリ・メンテナンス用品	1,352,740	18.0	1,269,513	15.5	1,825,166	18.3
カーエレクトロニクス	759,190	10.1	707,007	8.6	985,559	9.9
オイル・バッテリー	597,005	7.9	667,710	8.1	801,927	8.0
車販売	495,579	6.6	584,943	7.1	627,376	6.3
飲食	316,227	4.2	521,901	6.4	426,469	4.3
その他	58,158	0.8	52,883	0.6	78,766	0.8
合計	7,531,134	100.0	8,215,467	100.0	10,000,866	100.0

- (注) 1. 「飲食」につきましては、2021年4月に「焼肉ライク 川越クレアモール店」を開設し、第1四半期連結累計期間より通期での営業を行っております。また、2022年4月に「焼肉ライク ekie広島店」・「焼肉ライク 南池袋店」、2022年10月に「焼肉ライク 川口駅東口店」を新たにオープンし営業を開始しております。
2. 各品目の主な内容は、次のとおりであります。

品目	主な内容
ピット・サービス工賃	オイル交換、タイヤ交換、各種用品取付、板金・塗装、車検・整備、ボディコーティング、ヘッドライトコーティング、車内クリーニング
タイヤ・ホイール	夏用タイヤ、冬用タイヤ、アルミ・スチールホイール
アクセサリ・メンテナンス用品	チャイルドシート、キャリア、チェーン、車内アクセサリ、ドレスアップ用品（ステアリング、シート、ランプ等）、チェーンナップ用品（エアロパーツ、マフラー、サスペンション等）、省燃費用品等
カーエレクトロニクス	カーナビゲーション、カーTV、ドライブレコーダー、DVD・CD・MDプレーヤー、スピーカー、アンプ、接続具等
オイル・バッテリー	国産・輸入エンジンオイル、国産車用・外車用バッテリー
車販売	新車及び中古自動車
飲食	店舗における飲食サービス

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は5,265,815千円となり、前連結会計年度末に比べ682,924千円（前連結会計年度末比14.9%）増加しました。これは主に現金及び預金107,850千円の減少に対して、売掛金543,294千円及び商品282,442千円の増加があったためであります。固定資産は3,199,265千円となり、前連結会計年度末に比べ20,265千円（同0.6%）増加しました。これは主に差入保証金27,492千円の減少に対して有形固定資産が60,077千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は8,465,081千円となり、前連結会計年度末に比べ703,189千円（同9.1%）増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,680,631千円となり、前連結会計年度末に比べ347,608千円（前連結会計年度末比26.1%）増加しました。これは主に賞与引当金44,334千円及び未払法人税等43,048千円の減少に対し、買掛金が375,005千円増加したことによるものであります。固定負債は835,574千円となり、前連結会計年度末に比べ91,862千円（同12.4%）増加しました。これは主に長期借入金8,120千円の減少に対し、固定負債のその他に含まれる長期未払金78,638千円が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は2,516,206千円となり、前連結会計年度末に比べ439,471千円（同21.2%）増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は5,948,875千円となり、前連結会計年度末に比べ263,718千円（前連結会計年度末比4.6%）増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払いによる利益剰余金186,840千円の増加と、新株発行による資本金38,422千円及び資本剰余金38,352千円の増加によるものであります。

この結果、自己資本比率は70.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は概ね計画通り推移しており、現時点での2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月9日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,414,299	2,306,448
売掛金	543,974	1,087,269
商品	1,120,708	1,403,150
その他	503,909	468,947
流動資産合計	4,582,891	5,265,815
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,143,877	2,280,479
減価償却累計額	△1,219,377	△1,280,887
建物及び構築物 (純額)	924,499	999,592
土地	686,694	686,694
その他	817,500	803,182
減価償却累計額	△485,529	△486,226
その他 (純額)	331,970	316,956
有形固定資産合計	1,943,165	2,003,242
無形固定資産	15,250	13,050
投資その他の資産		
差入保証金	709,708	682,216
その他	510,876	500,755
投資その他の資産合計	1,220,584	1,182,972
固定資産合計	3,179,000	3,199,265
資産合計	7,761,891	8,465,081
負債の部		
流動負債		
買掛金	504,092	879,097
1年内返済予定の長期借入金	29,520	15,500
未払法人税等	108,142	65,094
賞与引当金	133,354	89,020
その他	557,913	631,920
流動負債合計	1,333,023	1,680,631
固定負債		
長期借入金	8,120	—
退職給付に係る負債	537,844	557,233
資産除去債務	93,070	97,735
その他	104,676	180,605
固定負債合計	743,711	835,574
負債合計	2,076,734	2,516,206
純資産の部		
株主資本		
資本金	614,661	653,084
資本剰余金	589,245	627,597
利益剰余金	4,481,552	4,668,393
自己株式	△117	△117
株主資本合計	5,685,342	5,948,957
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△185	△82
その他の包括利益累計額合計	△185	△82
純資産合計	5,685,156	5,948,875
負債純資産合計	7,761,891	8,465,081

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	7,531,134	8,215,467
売上原価	3,982,332	4,254,177
売上総利益	3,548,802	3,961,290
販売費及び一般管理費	3,257,654	3,557,177
営業利益	291,147	404,113
営業外収益		
受取利息及び配当金	7,539	7,104
受取手数料	5,416	6,426
受取協賛金等	92,111	16,127
受取保険金	1,312	2,047
その他	15,473	10,749
営業外収益合計	121,853	42,455
営業外費用		
支払利息	4,110	6,473
固定資産除却損	189	—
その他	1,460	2,533
営業外費用合計	5,761	9,006
経常利益	407,240	437,561
税金等調整前四半期純利益	407,240	437,561
法人税、住民税及び事業税	83,273	141,290
法人税等調整額	43,773	18,507
法人税等合計	127,046	159,798
四半期純利益	280,193	277,763
親会社株主に帰属する四半期純利益	280,193	277,763

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	280,193	277,763
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△101	103
その他の包括利益合計	△101	103
四半期包括利益	280,092	277,866
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	280,092	277,866
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートボックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,214,907	316,227	7,531,134	—	7,531,134
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,214,907	316,227	7,531,134	—	7,531,134
セグメント利益又は損失 (△)	605,069	△52,069	552,999	△261,851	291,147

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△261,851千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートボックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,693,565	521,901	8,215,467	—	8,215,467
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,693,565	521,901	8,215,467	—	8,215,467
セグメント利益又は損失 (△)	731,036	△57,692	673,344	△269,230	404,113

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△269,230千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。